

諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 22 年 1 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

御岳火口では、爆発的噴火¹⁾を含む噴火が断続的に発生しました。火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

諏訪之瀬島では、御岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 1 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2、図 4）

御岳火口では、噴火が断続的に発生し、そのうち爆発的噴火¹⁾は 64 回（2009 年 12 月：20 回）でした。

噴煙の最高高度²⁾は火口縁上 1,200m（2009 年 12 月：1,000m）でした。

4 日に第十管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測及び、26 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、御岳火口及びその周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

火山性地震の月回数は、A 型地震³⁾が 54 回（2009 年 12 月：25 回）、B 型地震⁴⁾は 364 回（2009 年 12 月：220 回）で、前月と比べてやや増加しました。

火山性微動の月回数は 225 回（2009 年 12 月：311 回）、継続時間の月合計は 124 時間 5 分（2009 年 12 月：232 時間 2 分）でした。

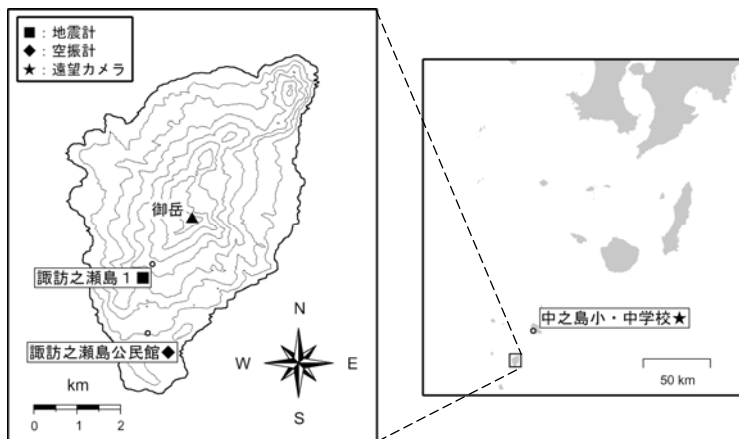


図 1 諏訪之瀬島 観測点配置図

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 2003 年 3 月 28 日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 3) P 相や S 相が明瞭で高周波成分が卓越する地震です。
- 4) P 相や S 相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震です。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 2 月分）は平成 22 年 3 月 9 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、海上保安庁のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

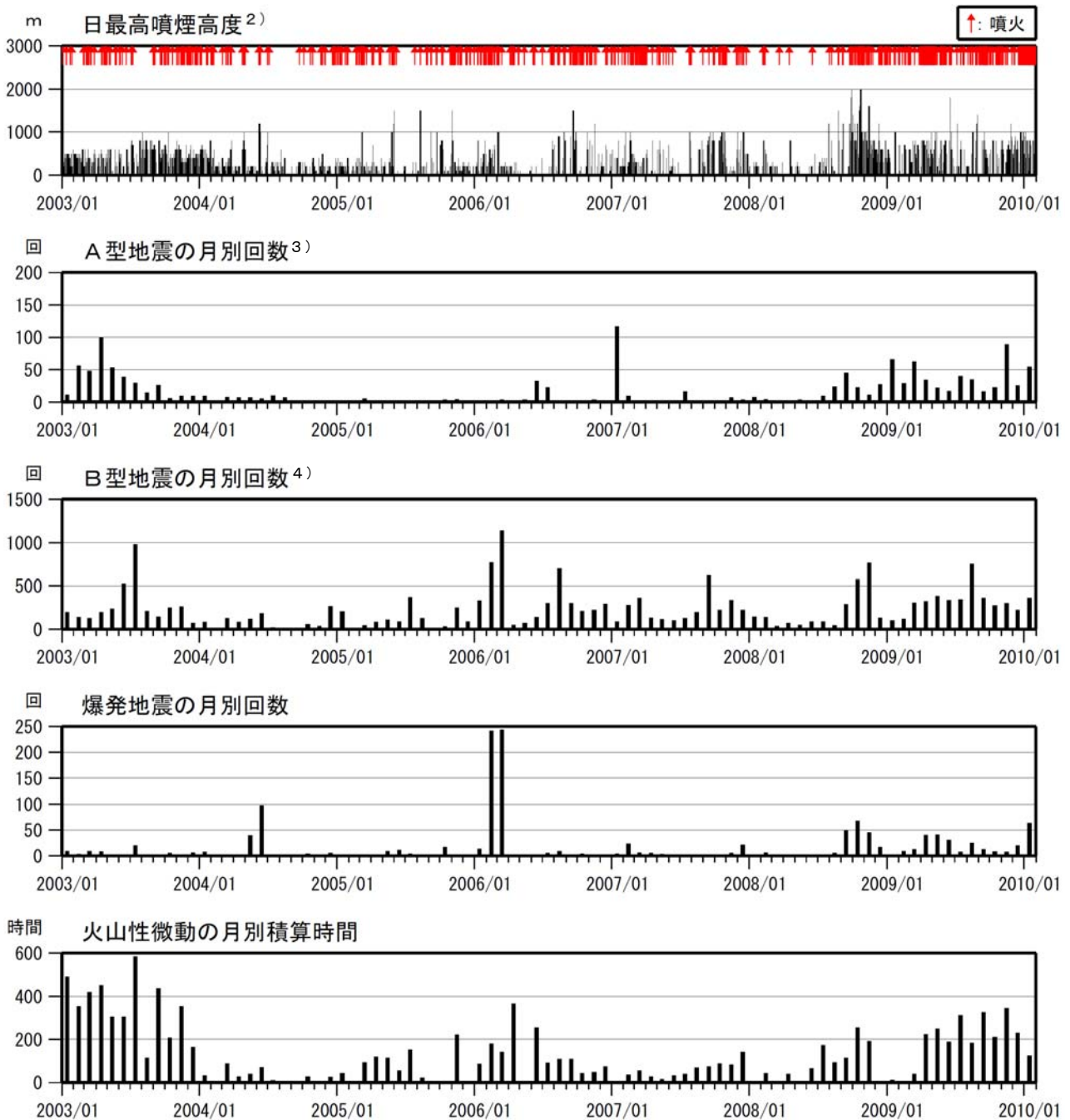


図 2 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003 年 1 月～2010 年 1 月）

- ・長期にわたり噴火を繰り返しています。
- ・火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

< 1 月の状況 >

- ・噴煙の最高高度は火口縁上 1,200m（2009 年 12 月：1,000m）でした。
- ・火山性地震の月回数は、A 型地震が 54 回（2009 年 12 月：25 回）、B 型地震は 364 回（2009 年 12 月：220 回）で、前月と比べてやや増加しました。
- ・爆発的噴火を含む噴火が断続的に発生し、そのうち爆発的噴火は 64 回（2009 年 12 月：20 回）でした。

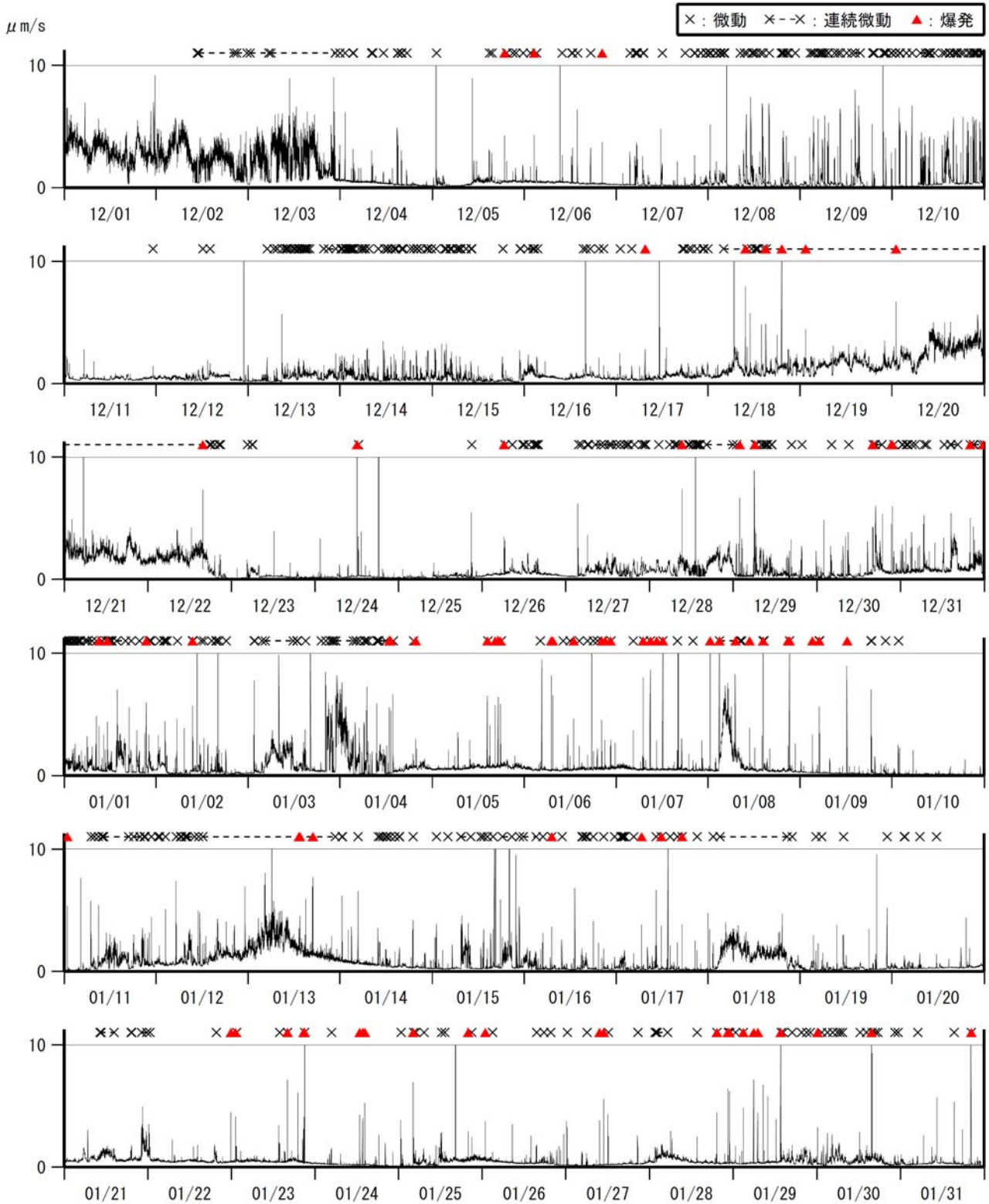


図 3 諏訪之瀬島 1 分間平均振幅の時間変化（諏訪之瀬島 1 上下成分）

（2009 年 12 月～2010 年 1 月）

< 1 月の状況 >

火山性微動の月回数 は 225 回（2009 年 12 月 : 311 回）、継続時間の月合計は 124 時間 5 分（2009 年 12 月 : 232 時間 2 分）でした。

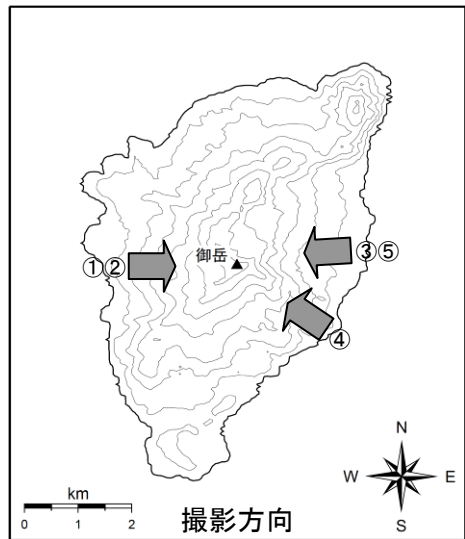


図 4※ 諏訪之瀬島 御岳火口周辺の状況

4日に第十管区海上保安本部の協力により実施した上空からの観測及び、26日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、御岳火口及びその周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。